

名護市の 米軍基地のこと

○米軍基地に起因する騒音・事故等については…

名護市内の米軍被害については、昼夜を問わず発生することから、名護市では、市内において基地から発生する騒音や、事件・事故に関する市民からの情報を受け付ける専用電話として、平成19年6月1日から「基地苦情110番」を設置しております。

米軍基地に起因する騒音・事故等については、下記専用ダイヤルまでご連絡ください。

基地苦情110番ダイヤル: (直通) 53-1420

※勤務時間内(平日8:30~17:15)においては、職員が受付いたします。
それ以外の時間につきましては留守番電話に切り替わりますので、
地域・状況等の情報及びご用件をお伝えください。

※電話番号の掛け間違いがないようご注意ください。

○米軍基地に起因する事件・事故に関する苦情等件数

年度 通報種別	H29	H28	H27	H26	H25
航空機等	39	35	26	12	51
爆発音等	8	14	2	6	17
その他	0	1	2	1	6
計	47	50	30	19	74



発行：名護市 総務部 総務課 (平成31年3月)

TEL：0980-53-1212

FAX：0980-54-0811

沖縄の 基地負担の現状

国土面積の0.6%に過ぎず、都道府県別面積順位でも下から4番目の小さな面積しかない沖縄県には、在日米軍専用施設の約70.4%が存在しています。

戦後70年以上が経った現在でも、米軍の訓練等による騒音や事件・事故等により、県民の生活に様々な影響を与えており、今なお、過重な基地負担を抱える現状にあります。

沖縄県民にとって米軍基地に起因する事件・事故等は、いつ誰に起きてもおかしくない非常に身近な問題なのです。



廃弾処理と思われる土煙(2014年11月14日) キャンプ・シュワブ

日本に駐留する米軍人等の約半数が 沖縄県に住んでいます。

基地の負担は、面積だけではありません。沖縄防衛局の資料(平成25年3月末時点 平成26年以降は非公表)によると、在日米軍人等は約10万人で沖縄県には約5万2千人が住んでいます。昭和47年から平成29年までに沖縄県内では米軍人等による事件が5,967件あり、そのうちの580件が殺人、強盗、強姦、放火等の凶悪犯です。

在日米軍人等の施設・区域内外における都道府県別居住者数 (平成25年3月末時点)

都道府県名	居住者(人)	施設・区域内(人)	施設・区域外(人)
青森県	8,118	6,401	1,717
東京都	8,201	6,890	1,311
神奈川県	26,498	19,194	7,304
山口県	5,379	4,264	1,115
長崎県	5,059	2,868	2,191
その他道府県	330	176	154
沖縄県外	53,585	39,793	13,792
沖縄県	52,092	35,657	16,435
全国計	105,677	75,450	30,227

沖縄防衛局公表資料より

在沖米軍人等による犯罪検挙状況 (昭和47年~平成29年)

区分	米軍構成員等事件(件数)						計
	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他	
沖縄県	580	1,075	2,957	250	73	1,032	5,967

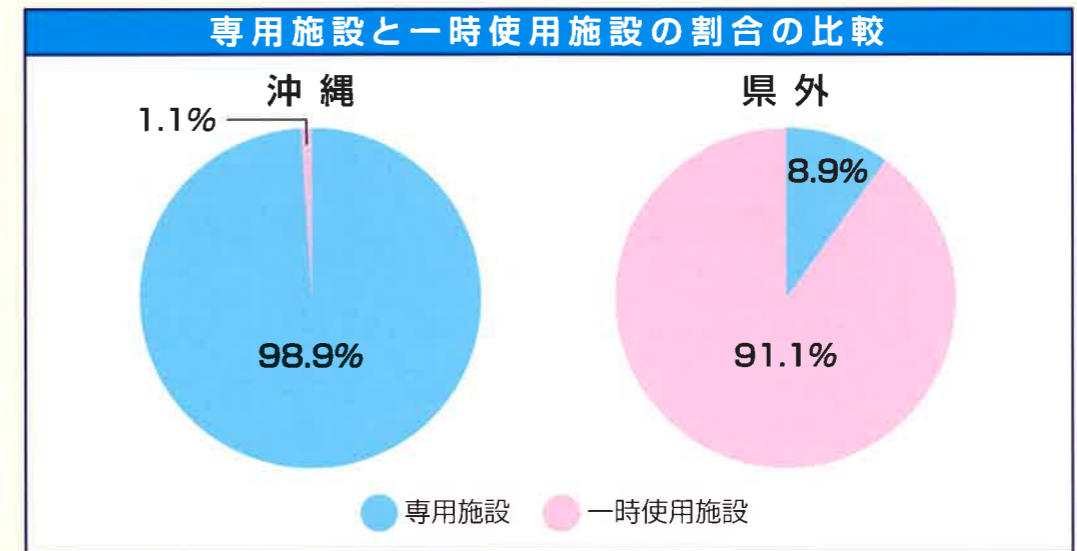
沖縄県「沖縄の米軍及び自衛隊基地(統計資料集)平成30年3月」を基に名護市で作成

沖縄の米軍基地は98.9%が専用施設で、 県外の米軍基地は91.1%が一時使用施設です。

米軍基地には、専用施設と一時使用施設があります。

専用施設は、米側が管理する施設・区域のことであり、一時使用施設は日本側が管理を行う施設(主に自衛隊施設)を、米軍が一定の期間を限って使用している施設・区域のことです。

専用施設は、米側の管理下にあるため、日本側が施設に立ち入る際の許可なども米軍の裁量により行われます。



沖縄県「沖縄の米軍及び自衛隊基地(統計資料集)平成30年3月」を基に名護市で作成

国土の0.6%の沖縄に、専用施設の70.4%があります。

沖縄では一時使用施設の実態を踏まえ、米軍基地の負担率として専用施設の負担率である70.4%を用いるのが一般的です。沖縄の米軍基地は、戦後の米軍統治下に土地を強制的に収用され造られたものがほとんどです。県外で高まっていた米軍基地に対する反発を受けた米軍が、当時日本の施政下になかった沖縄に多くの米軍基地を移転・集中させたのです。

沖縄の米軍基地は、その実態や造られた経緯が県外の米軍基地とは大きく異なるのです。

国内基地の面積

区分	全国	沖縄	県外	
米軍基地	専用施設	264,343千㎡ 100%	186,092千㎡ 70.4%	78,250千㎡ 29.6%
	一時使用施設	716,678千㎡ 100%	2,130千㎡ 0.3%	714,549千㎡ 99.7%
	計	981,021千㎡ 100%	188,222千㎡ 19.2%	792,799千㎡ 80.8%
自衛隊基地	1,089,612千㎡ 100%	6,931千㎡ 0.6%	1,082,680千㎡ 99.4%	
合計(国内基地)	1,356,355千㎡ 100%	194,896千㎡ 14.4%	1,161,458千㎡ 85.6%	

沖縄県「沖縄の米軍及び自衛隊基地(統計資料集)平成30年3月」を基に名護市で作成

米軍基地が市民生活に与える影響

航空機騒音

※騒音=63dB以上

○最大騒音
(安部測定局:平成26年8月14日) **100.0** dB

○騒音発生回数(年最大)
(久志測定局:平成29年) **2,210** 回

○騒音発生回数(日最大)
(安部測定局:平成28年12月14日) **119** 回

ヘリパッド周辺では、ヘリ等のホバリングや離着陸、車輛等の吊り下げ訓練により、1時間近く騒音が発生し続けることがあります。

射撃訓練等騒音

※騒音=80dB以上

○騒音最大値
(辺野古測定局:平成30年5月9日) **105.6** dB

○騒音発生回数(日最大)
(豊原測定局:平成30年5月22日) **281** 回

キャンプ・シュワブで実施される射撃訓練の音と振動は、西海岸にある市街地まで伝わる場合があります。過去には市街地よりも遠い屋我地地域から訓練音に対する苦情が寄せられたこともあります。

明け方の騒音として AM 3:51に **101.3** dB (久志測定局:平成27年2月10日) を記録しました。

米軍機等事故

発生年月	発生場所	内容
昭和44年12月	シュワブ内	F105サンダーチーフ墜落。乗員2名死亡
昭和53年11月	八重岳	C-130救難機の空中給油ホースが電線に落下・切断し、停電
昭和59年10月	天仁屋	CH-53Dヘリの後部ドアが畑に落下
平成元年11月	シュワブ沖	辺野古崎南東2~3km海上にSH2Fヘリが墜落。乗員1名行方不明
平成6年11月	シュワブ内	UH-1Nヘリが墜落。乗員1名死亡。4名重軽傷
平成20年10月	真喜屋	嘉手納飛行場エアロクラブ所属小型飛行機が畑に墜落し、周辺が炎上
平成28年12月	安部	MV-22オスプレイが名護市の東海岸沖合に不時着水

米軍訓練事故

発生年月	発生場所	内容
昭和53年4月	数久田	集落から350mの海上に105ミリ砲弾着弾
昭和53年12月	許田	水陸両用車の機銃射角の設定誤りによる着弾
昭和54年8月	数久田	養豚用水タンクにM12重機関銃弾着弾
昭和59年5月	許田	戦車のM85重機関銃弾が民間大型車両のフロントを貫通
昭和62年10月	許田	M2重機関銃弾が走行中の民間車両(タクシー)に着弾
平成8年12月	シュワブ沖	水陸両用車2台が沈没
平成10年8月	大浦湾	パラシュート訓練中に隊員が事故死
平成14年7月	数久田	M2重機関銃弾が農作業中の男性の至近距離に着弾
平成15年4月	シュワブ沖	水陸両用車1台が水没
平成17年6月	シュワブ沖	水陸両用車1台が水没。乗員2名軽傷
平成21年3月	シュワブ内	爆破訓練中に事故。米兵1名死亡、1名重傷、1名負傷
平成30年6月	数久田	農作業小屋にシュワブ内からの流弾が着弾

米軍人・軍属事件

発生年月	発生場所	内容
昭和36年7月	辺野古	バー店内で米兵2人が女性従業員を刃物で刺殺
昭和49年10月	辺野古	バーの女性経営者が店内で強盗目的の米兵にブロックで殴られ死亡
昭和57年7月	辺野古	シュワブ所属の海兵隊員が住宅建築現場で飲食店従業員の女性を絞殺
平成9年9月	大西	米兵2人が民家に不法侵入し、放火
平成10年1月	辺野古	米兵が路上で民間人の財布を奪う。
平成15年3月	許田	米軍属車両(酒気帯び)が民間車両に衝突し、民間人1人が死亡
平成16年6月	為又	米兵が民間のガソリンスタンドで偽札を使用
平成16年7月	辺野古	バーで米軍属男性が経営者男性に打撲傷を負わせる。
平成17年4月	喜瀬	米少年3人がタクシードライバーの頭部を殴打し、現金を奪い逃走
平成24年3月	辺野古	米軍属男性が自営業の男性をビール瓶で殴り左耳を裂傷させる。

名護市にある4つの米軍基地

名護市は沖縄本島北部にある

人口:約63,000人

面積:約21,000haの

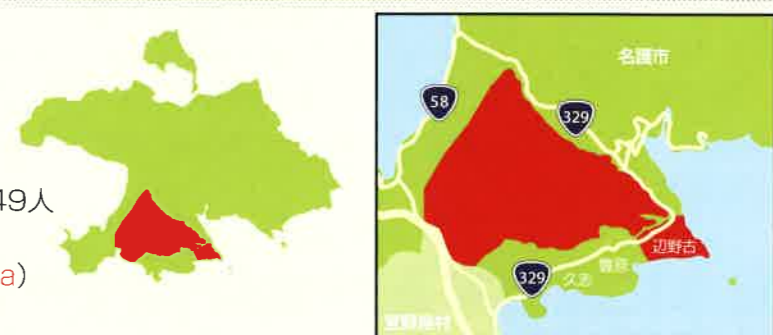
自然豊かな文化都市です。

市面積の約10%が米軍基地です。



キャンプ・シュワブ

- 区分: 専用施設
- 主な使用目的: 宿舎、管理事務所及び訓練場
- 管理軍: 海兵隊
- 駐留軍従業員数(平成29年3月末現在): 249人
- 使用開始年月日: 昭和31年11月16日
- 面積: 2,062.6ha (うち市内 2,042.7ha)
- 返還された面積: 42.7ha



辺野古弾薬庫

- 区分: 専用施設
- 主な使用目的: 弾薬庫
- 管理軍: 海兵隊
- 駐留軍従業員数(平成29年3月末現在): 0人
- 使用開始年月日: 昭和31年
- 面積: 121.4ha (うち市内 121.4ha)
- 返還された面積: 0.5ha



キャンプ・ハンセン

- 区分: 専用施設
- 主な使用目的: 宿舎、管理事務所及び訓練場
- 管理軍: 海兵隊
- 駐留軍従業員数(平成29年3月末現在): 605人
- 使用開始年月日: 昭和32年
- 面積: 4,870.8ha (うち市内 5.9ha)
- 返還された面積: 406.3ha



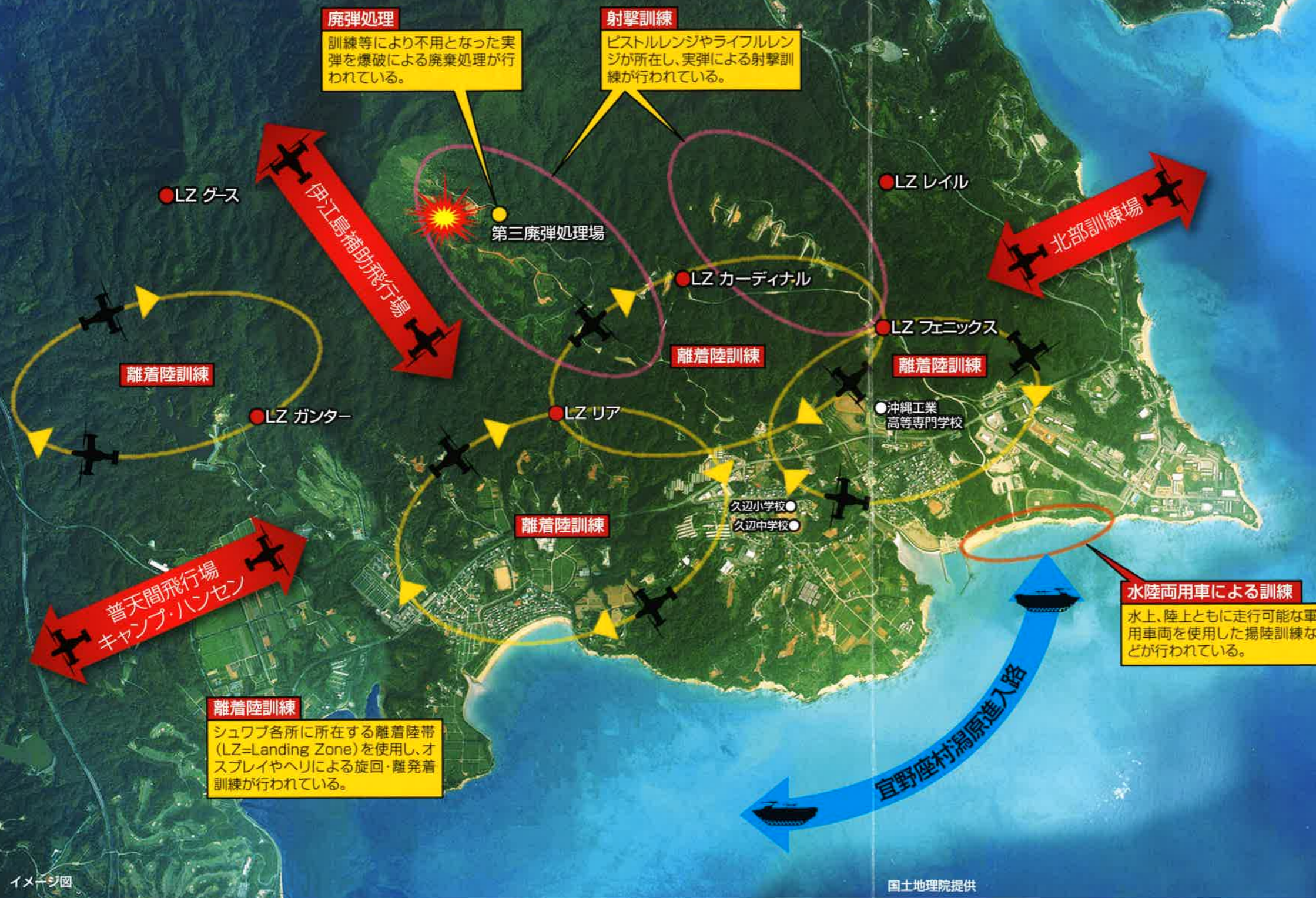
八重岳通信所

- 区分: 専用施設
- 主な使用目的: 通信所
- 管理軍: 空軍
- 駐留軍従業員数(平成29年3月末現在): 0人
- 使用開始年月日: 昭和25年
- 面積: 3.7ha (うち市内 2.5ha)
- 返還された面積: 20ha



キャンプ・シュワブにおける米軍訓練の概要

名護市では昼夜を問わず米軍が訓練を行っています。



- オスプレイ等による離着陸訓練飛行経路
- 射撃訓練実施エリア
- 水陸両用車訓練エリア
- 廃弾処理及び爆破訓練エリア
- ヘリ等着陸帯 (LZ)



名護市の基地問題への取組み

キャンプ・シュワブ演習場などの既存基地から派生する騒音や山火事、米兵による事件・事故など、米軍起因の様々な問題につきましては、安全・安心な市民生活を守る立場から被害の防止や綱紀の粛正を、政府を通して米軍に強く求めています。